

博士論文にみる米加両国の日本研究の動向

SUZUMURA, Yūsuke / 鈴木, 裕輔

(出版者 / Publisher)

法政大学国際日本学研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

INTERNATIONAL JAPANESE STUDIES / 国際日本学

(巻 / Volume)

3

(開始ページ / Start Page)

103

(終了ページ / End Page)

116

(発行年 / Year)

2005-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00022579>

博士論文にみる米加両国の日本研究の動向

鈴 村 裕 輔

1. はじめに

現在、世界各国において日本研究は盛んに行われている。

各国の研究機関と研究の主要な傾向については国際日本文化研究センターが調査している¹。これは世界における日本研究の消長を知るために有益な研究であるが、刊行時期との関係で収録された情報は1990年代前半までとなっている²。1990年代半ば以降の各国における日本研究の動向についての体系的な研究はほとんどない。わずかに、宮城徹がオーストラリアの修士論文および博士論文の主題を分析し、同国における日本研究の傾向の分析を行っているが³、これなどは例外的な研究といえる。

こうした状況に鑑みるなら、現在の日本研究の動向を知るという意味からも、国際日本文化研究センターの調査に続く研究は欠かすことができない。その中でも、世界の日本研究の一大拠点ともいべきアメリカ合衆国の動向を調査することは、現今の日本研究のあり方を把握するためにも重要であるといえる。

その際、既に一家をなした研究者の著作や論文にあたるという方法もあるが、日本研究の今後を理解するという観点からは、いわゆる若手研究者の研究の動向を知ることが重要となる。そして、博士論文は次代の研究を支える研究者にとって、いわば最初の社会的な業績となる。この点に、博士論文における日本研究を検討するということの意義が存する。

このような考えから、今回アメリカ合衆国およびカナダ両国の大学に提出、受理された日本研究に関する博士論文の主題と傾向について調査したので、報告する。

2. 調査対象

研究の対象となったのは、2000年から2002年にかけてアメリカ合衆国およびカナダで提出、受理された博士論文のうち、日本を主題として扱った論文である。この期間の日本に関係する博士論文のうち、人文科学と社会科学に関する論文は法政大学国際日本学研究所のデジタルライブラリに収録されており、今回の研究では同所の資料を使用した。

法政大学国際日本学研究所はUniversity Microfilms International (UMI) が提供する博士論文のマイクロフィルムデータをPDFファイルとしてデジタルライブラリに収めている。

UMIは1938年、ユージン・パワーによって設立された。当初はUniversity Microfilmsと称し、イギリスの大英博物館に収録されていた学術作品をマイクロフィルム化する事業を行っていた。1939年からは合衆国で提出、受理された博士論文を収集し、目録作成、マイクロフィルム化を行ったほか、博士論文の復刊なども手がけた。

その結果、学位論文の総合目録である*Dissertation Abstracts International* は2000年までに160万編の博士論文および修士論文を収録するに至った⁴。

1985年、UMIはBell & Howell Companyに吸収合併された。Bell & Howellは2001年にProQuest Companyと社名を変更したが⁵、学位論文の収集事業は継続されている。現在、UMIには学術、文芸、報道の各部門で過去500年間、合計55億ページの画像が集積されており、毎年3700万ページに及ぶ画像が追加されている⁴。

3. 調査方法

法政大学国際日本学研究所デジタルライブラリ（以下、デジタルライブラリ）の収録論文を、主題と学位授与大学の二点から検討した。

主題については、デジタルライブラリの区分であるSociology、Education、Anthropology、History、Literatureの各部門を大分類とし、これに従って各論文を区分した。次に、各論文の主題を抽出、分類するとともに、abstractない

しacknowledgementから論文の研究の方針、傾向、観点などを分析した。

一方、学位授与大学については、各論文の冒頭に記されている大学名に従って分類した。その際、UNIVERSITY OF CALIFORNIAのように、パークレー、デーヴィス、ロサンゼルス、サンディエゴなどの複数の校地をもつ大学については、各校地を一括してUNIVERSITY OF CALIFORNIAの学位論文として算出せず、各校地ごとの実績数とした。

このほか、参考として、全論文提出者の姓名を検討し、日本人あるいは日系人と思われる人物の数を調べた。

4. 調査結果

デジタルライブラリに収録されている学位論文について、2000年から2002年における学位授与大学の所在地数の推移を表1（107ページ）に、大分類の内訳の推移を表2（107ページ）に示す。

論文総数については、2000年が159編、2001年が165編、2003年が139編であった。

所在地別の学位授与件数のうち、2000年については合衆国が140件、カナダが19件、2001年については合衆国が153件、カナダが12件、2002年については合衆国が127件、カナダが12件であった。授与件数の米加両国の構成比は、2000年が米：88.1%、加：11.9%、2001年が米：92.7%、加：7.3%、2002年が米：91.4%、加：8.6%であった。

大分類からみた論文のうち、2000年から2002年にかけての各部門の件数と構成比は、Sociologyが75件（16.2%）、Educationが115件（24.8%）、Anthropologyが65件（14.0%）、Historyが121件（26.1%）、Literatureが87件（18.8%）であった。

また、各年の上位2分類は、2000年ではEducationが46件、Historyが38件、2001年ではHistoryが47件、Educationが37件、2002年ではHistoryが36件、Educationが32件であった。

論題に時代区分を付す論文数の推移を表3（107ページ）に示した。論題に付された時代区分のうち最も多いのは明治時代の10件で、次に平安時代と大正

時代の4件、江戸時代の3件であった。奈良、戦国、安土桃山、平成の各時代については、論題に区分が明示されていなかった。

なお、論題に年代を付した論文とその論題は表4（108ページ）に示したとおりで、大半が1860年代後半以降、すなわち明治時代以降を主題としていた。

一方、各大学の学位授与件数の推移を表5（111ページ）に、各年の学位授与件数の上位5校の推移を示した。

2000年から2002年にかけて延べ142大学が日本を研究対象とした論文に博士号を授与している。このうち、3年間で1名に学位を授与したのが74大学と最も多く、ついで2名と3名の16大学、4名の10大学となっている。11名以上に学位を授与したのは8大学で、最多はハワイ大学の21名であった。

各年の授与状況を見ると、いずれの年も授与数1名が最も多く、2名がこれについだ。単年での最多授与数は2000年と2001年のCOLUMBIA UNIVERSITYで、8名であった。

2000年から2002年における学位授与件数の上位5校を表6（111ページ）に示した。学位授与件数が多かった5校はUNIVERSITY OF HAWAII（21件）、COLUMBIA UNIVERSITY（19件）、UNIVERSITY OF CALIFORNIA, LOS ANGELES（19件）、THE OHIO STATE UNIVERSITY（15件）、TEMPLE UNIVERSITY（13件）であった。このうち、各年の上位5傑に入っているのはUNIVERSITY OF HAWAIIとUNIVERSITY OF CALIFORNIA, LOS ANGELESの2校で、COLUMBIA UNIVERSITYとTHE OHIO STATE UNIVERSITYも2000年と2001年で上位5傑となっている。

日本人もしくは日系人と思われる姓名の執筆者数の推移を表7（112ページ）に示した。2000年から2002年における全論文提出者に占める日本人もしくは日系人の割合は41.9%である。このうち、2000年が41.5%、2001年が41.8%、2002年が42.4%だった。また、期間中にアメリカ合衆国の大学に論文を提出したものは合計で175名、カナダの大学に提出したものは19名であった。

表1 所在地別の学位授与件数の推移 (単位: 件)

	論文総数	アメリカ合衆国	構成比	カナダ	構成比
2000	159	140	88.1%	19	11.9%
2001	165	153	92.7%	12	7.3%
2002	139	127	91.4%	12	8.6%
合計	463	420	90.7%	43	9.3%

表2 2000年から2002年における論文の区分の内訳 (単位: 件)

	2000-2002年 構成比		2000 構成比		2001 構成比		2002 構成比	
Sociology	75	16.2%	27	17.0%	25	15.2%	23	16.5%
Education	115	24.8%	46	28.9%	37	22.4%	32	23.0%
Anthropology	65	14.0%	20	12.6%	20	12.1%	25	18.0%
History	121	26.1%	38	23.9%	47	28.5%	36	25.9%
Literature	87	18.8%	28	17.6%	36	21.8%	23	16.5%
合計	463	100.0%	159	100.0%	165	100.0%	139	100.0%

表3 論題に時代を付す論文数の推移 (単位: 件)

	2000	2001	2002	合計
大和時代	1	0	0	1
奈良時代	0	0	0	0
平安時代	3	1	0	4
鎌倉時代	0	0	1	1
室町時代	1	0	0	1
戦国時代	0	0	0	0
安土桃山時代	0	0	0	0
江戸時代	1	1	1	3
明治時代	0	4	6	10
大正時代	1	2	1	4
昭和時代	2	0	0	2
平成時代	0	0	0	0

表4 論題に年代を付す論文と論題

2000年

Seventy years: Japanese naval development from the 1870s to the 1940s.

Mobilizing for war, engineering the peace: The state, the shop floor, and the engineer in Japan, 1935–1960.

Japan at the exhibition, 1867–1970.

For the sake of the nation for the sake of women: The pragmatism of Japanese feminisms in the Asia-Pacific War (1931–1945).

Japanese-German relations and the impact of the war in Europe on Japan's strategy of southern advance, 1935–1941.

Kokubokan: Japanese aircraft carrier development, 1922–1945.

Change in U.S.-Japanese relations: The role of Japanese policy entrepreneurs, 1978–1996.

Iron and silk: Progress and ideology in the technological transformation of Japan, 1850–1895.

The Japanese 'new woman': Contending images of gender and modernity, 1910–1920.

Interstitial lives: Race, community, and history among Japanese immigrants caught between Japan and the United States, 1885–1941.

'Our Japanese citizens': A study of race, class, and ethnicity in three Japanese American communities in Santa Barbara County, 1900–1960 (California).

The 'woman question' as a site of conflict: Mission schools for women in modern Japan, 1872–1899.

The production of modernity in Japanese cinema: Shochiku Kamata Style in the 1920s and 1930s.

Tosa Mitsunobu's ko-e: Forms and functions of small-format handscrolls in the Muromachi period (1333–1573) (Japan).

Negotiating with imperialism: Japan and the unequal treaty regime, 1858–1872.

The reconstruction of self and society in early postwar Japan, 1945–1949.

Women's struggle and female migration into Japan in the 1980s–1990s.

Growth solutions: Economic knowledge and problems of capitalism in post-war Japan, 1945–1960.

On Chiang Kai-shek's position on resisting Japan: An analysis of 'domestic stability takes precedence over resisting foreign invasion' policy, 1928–1936.

Toward the end of the shosetsu, 1887–1933 (Japan).

'The yardstick of trade': The Far Eastern Division and American-East Asian relations, 1933–1935 (China, Japan, Maxwell Hamilton, Stanley Hornbeck).

Japanese imperialism and civic construction in Manchuria: Changchun, 1905–1945.

Changes in the permanent employment system in Japan between 1982 and 1997.

Japanese contemporary theatre in the 1980s: Noda Hideki and the manga discourse of Japan.

2001年

From concentration camp to campus: A history of the National Japanese American Student Relocation Council, 1942–1946.

Mixed use of the three Japanese writing systems: From the 17th century to the present.

- Ethnographies of modernity: Nakagami Kenji's counter-history of national literature (1968–1983) (Japan).
- Conflict and accommodation in Taisho Japan: The formation of civil rule (*bunka seiji*) in colonial Korea, 1910–1975.
- Governance of a private Japanese university before and after the 1998 University Council reforms.
- Power, culture, and national identity: The United States, China, and Japan, 1895–1920.
- Japanese women, their unions, and the security treaty struggle, 1945–1960.
- Haikai poet Yosa Buson (1716–1783) and the Back to Basho movement (Japan).
- From settlement to resettlement: Japanese Americans in (and out of) Santa Monica, California, 1899–1960.
- The origins of writing in early Japan: From the 1st to the 8th century C.E..
- The men on the ground: The OSS in Vietnam, 1944–1945 (Japan).
- After battle, tighten your helmet strings: The development of the Imperial Japanese Navy, 1875–1905.
- Negotiating the post-war: Politics and memory in Japan, 1945–1995.
- Memorializing World War II: Rhetoric of Japan's public memory, 1945–1995.
- Science, ideology, empire: A history of the 'scientific' in Japan from the 1920s to the 1940s.
- Speaking theory through poetry: Yosano Akiko (1878–1942) on poetic composition and women's writing (Japan).
- The intellectual roots of Japanese capitalism: Economic thought and policy, 1835–1885.
- Deaf identities, sign languages, and minority social movement politics in modern Japan (1868–2000).
- Raku ceramics: Tradition and cultural reproduction in Japanese tea practice, 1574–1942.
- Restoration of realism: Kojima Kikuo (1887–1950) and the growth of art criticism in modern Japan.
- Contested bodies and cultures: The politics of public health and race within Mexican, Japanese, and Chinese communities in Los Angeles, 1879–1939 (California).
- 'The people will not be cheated!': Domestic criticism of Japan's Siberian intervention and 'imperial democracy,' 1918–1922.
- Comparing perceptions: Japan as archetype for Ottoman modernity, 1876–1918.
- Beyond the workplace: The uneven development of the Japanese space-economy and the role of labor, 1965–1994.
- History of Japanese policies in education aid to developing countries, 1950s–1990s: The role of subgovernmental processes.
- The Nanjing Massacre in history and memory: Japan, China, and the United States, 1937–1999.
- A dialogue between past and present: The fiction of Higuchi Ichiyo (1872–1896) (Japan).
- Politics and culture in postwar Japan: Akasegawa Genpei and the artistic avant-garde, 1958–1970.
- Gender, knowledge, and power: Reproductive medicine in Japan, 1790–1930.

2002年

Seeing past destruction: War and memory in 1960s Japanese fiction (Oda Makoto, Kaiko Takeshi).

Religious and political contexts influencing initial receptivity to Protestant Christianity in Korea and Japan (1905–1953).

Confucianism: The key to Korea's survival during the Japanese occupation from 1910–1945.

Idealism, immigration and imperialism: Durham Stevens and the rise and fall of United States diplomacy with Japan and Korea, 1873–1908.

Ethnicity in empire and nation: Manchus, Manzhouguo, and Manchuria (1911–1952) (China, Japan).

Organizing the firm: Corporate governance in Germany and Japan, 1870–2000.

Two visions of the Orchid Pavilion Gathering: A reconsideration of the socio-political significance of the paintings by Kano Sansetsu and Ikeno Taiga in the Tokugawa period (1615–1868) (Japan).

Leading British periodicals on East Asia: 1870–1911 (China, Japan, Korea).

Japanese picture marriage in 1900–1924 California: Construction of Japanese race and gender.

Making sense of Ryoshiro (Quantum theory): Introduction of quantum mechanics into Japan, 1920–1940 (Yoshio Nishina).

Youth, body, and subjectivity in the Japanese cinema, 1955–1960.

Developing the female self: Same-sex love, love marriage and maternal love in modern Japanese literature, 1910–1939 (Okamoto Kanoko, Tanizaki Jun'ichiro, Yoshiya Nobuko).

Wielding pens as swords: Chinese women writers and the Japanese occupation of Manchuria, 1936–1945.

The kokugo revolution: Ueda Kazutoshi, language reform and language education in Meiji Japan (1868–1912).

Hammering down nails: Politics, diplomacy, and the quest for national unity in Japan and America, 1912–1919.

Sentimental fictions: A study of gender politics in selected writings of Hanasanjin (1790–1858) (Japan).

Reading between the lines: Poetry and politics in the imperial anthologies of the late Kamakura period (1185–1333) (Japan).

Cultural light, political shadow: Okakura Tenshin (1862–1913) and the Japanese crisis of national identity, 1880–1941.

Gender, the body, and desire in the novels of Natsume Soseki (1867–1916), focusing on 'Meian' (Japan).

School rules in post-scarcity Japan, 1975–1999.

表5 学位授与名数の推移（単位：校）

	2000-2002年	2000	2001	2002
0名	0	7	6	0
1名	74	43	38	47
2名	16	14	15	13
3名	16	9	7	6
4名	10	4	4	3
5名	6	1	5	2
6名	0	3	0	2
7名	2	1	3	2
8名	3	1	1	-
9名	3	-	-	-
10名	4	-	-	-
11名以上	8	-	-	-
合計	142	83	79	75

表6 各年の学位授与件数の上位5校の推移（単位：件）

2000-2002年		2000年	
UNIVERSITY OF HAWAII	21	COLUMBIA UNIVERSITY	8
COLUMBIA UNIVERSITY	19	UNIVERSITY OF HAWAII	7
UNIVERSITY OF CALIFORNIA, LOS ANGELES	19	THE OHIO STATE UNIVERSITY	6
THE OHIO STATE UNIVERSITY	15	UNIVERSITY OF CALIFORNIA, LOS ANGELES	6
TEMPLE UNIVERSITY	13	UNIVERSITY OF TORONTO	6
2001年		2002年	
COLUMBIA UNIVERSITY	8	TEMPLE UNIVERSITY	7
THE OHIO STATE UNIVERSITY	7	UNIVERSITY OF HAWAII	7
UNIVERSITY OF CALIFORNIA, LOS ANGELES	7	STANFORD UNIVERSITY	6
UNIVERSITY OF HAWAII	7	UNIVERSITY OF CALIFORNIA, LOS ANGELES	6
CALIFORNIA STATE UNIVERSITY, LONG BEACH	5	THE UNIVERSITY OF CHICAGO	5
THE UNIVERSITY OF CHICAGO	5	UNIVERSITY OF PENNSYLVANIA	5
UNIVERSITY OF MICHIGAN	5		
UNIVERSITY OF PITTSBURGH	5		
UNIVERSITY OF WASHINGTON	5		

表7 日本人もしくは日系人と思われる姓名の執筆者数の推移（単位：名）

	総人数	全提出者数に 占める割合	アメリカ合衆国の大 学への提出者数	カナダの大学 への提出者数
2000	66	41.5%	60	6
2001	69	41.8%	63	6
2002	59	42.4%	52	7
合計	194	41.9%	175	19

5. 考察

アメリカ合衆国およびカナダの大学に日本研究を主題とする博士論文を提出し学位を授与された学生の数は、デジタルライブラリに収録された情報を基にすると、2000年から2002年の3年間で合計463名であった。

両国で1年間に授与される博士号の総数からすれば、この数は決して多いものとはいえないだろう。また、Frank Josephが編纂した*Doctoral Dissertations on Asia*を分析した臼井祥子の報告によれば、日本部門に分類された論文は1980年に129編であったが、1987年には約2倍近い226編であった⁶。

*Doctoral Dissertations on Asia*は人文、社会、自然の三科学を収録対象としているため、人文科学と社会科学の二部門に限定されているデジタルライブラリの収蔵数とは隔たりがある。また、この3年間に人文科学と社会科学に限るだけでも毎年150編前後の日本研究に対して学位が与えられているということは、日本研究が合衆国とカナダの高等研究課程において重要な位置を占めていることを示唆しているといえよう。

一方、取り上げられる論文の主題は、ヨーロッパでの日本研究の成立以来正統派とみられていた近世以前の日本文学、文化芸術などがその割合を低下させているのが特徴といえよう。

たとえば、『源氏物語』は2001年に2編、説話は2000年と2002年に各1編、歌舞伎が2000年に1編、俳句が2000年に1編といった具合である。

①『源氏物語』

- ・ Uchiyama, Akemi; *The proximate dream: A comparative approach to 'The Tale of Genji' and two Western literary counterparts (Murasaki Shikibu, Japan, Miguel de Cervantes Saavedra, Spain, Fyodor Dostoyevsky, Russia)*, UNIVERSITY OF TORONTO, 2001.
- ・ Selden, Lili Iriye; *Discourses of desire and female resistance in the 'Tale of Genji' (Murasaki Shikibu, Japan)*, UNIVERSITY OF MICHIGAN, 2001.

②説話

- ・ L, Michelle Ilene Osterfeld I, *Unfinalized bodies: Reading the grotesque in setsuwa literature (Japan)*, PRINCETON UNIVERSITY, 2000.
- ・ Howell, Thomas R.; *Setsuwa, knowledge, and the culture of reading and writing in medieval Japan.*, UNIVERSITY OF PENNSYLVANIA, 2000.

③歌舞伎

- ・ Welch, Kathleen M., *Construction, conventions and aesthetics of scenery in the kabuki theatre (Japan)*, UNIVERSITY OF HAWAII, 2000.

④俳句

- ・ Somers, Sean; *The Dryad's bubble: Faith, nature, and movement in Charlotte Bronte, L. M. Montgomery, and haiku (Issa, Basho, Japan)*, SIMON FRASER UNIVERSITY, 2000.

これは、臼井も指摘するように、日本研究が既に地域研究の域を脱して、学問上の専門分野に吸収されたことを示しているといえるだろう⁷。

地域研究から学問上の専門分野への吸収、という移行は、各論文の視角にも影響を与えている。日本を特異な対象として考察するといういわゆる異国趣味ないしジャポニズム的な観点を明示的に有する論文は皆無といってよく、ほとんどは日本がもつ問題を各専門からの分析と考察を行っている。

アメリカの社会的風潮として世俗を離れて自分の興味だけに打ち込む好事家的研究に対する評価は低く、国家への貢献に寄与しうる研究が評価される⁸。このことを考え合わせると、もはやアメリカにおいては好事的な日本研究は重要な価値をもたず、国家への貢献に寄与することを求められる段階へと必然

的に移行したともいえる。

もしそうだとすれば、たとえば日本のいわゆるバブル経済を対象とする論文 (Kersti Abrams; *The Aftermath of an Economic Miracle: An Ethnography of the Japanese Recession*, CALIFORNIA INSTITUTE OF INTEGRAL STUDIES, 2000.) が、単に日本の国内的要因だけではなく世界経済との関連性という観点から考察を行い、社会の変化とアメリカ化ないしグローバル化と呼ばれる経済の変化が相互に作用すると指摘するのも、社会的要請を背景にしていると考えることができるだろう。

各大学が日本研究に対して博士号を授与した件数については、歴史的に日系人の数が多いハワイ州やカリフォルニア州、あるいはワシントン州の大学が上位を占めている。また、1970年代に比べ1980年代に日本研究関連の蔵書数が63%増加したTHE OHIO STATE UNIVERSITY⁶も3年間の累計授与数で第4位となっており、研究環境の整備が研究者の確保に結びついていると考えられる。

さて、全執筆者中の日本人あるいは日系人の割合については、即断することは難しい。なぜなら、この中には日本人がアメリカ合衆国もしくはカナダの大学に留学して博士論文を提出したという場合や、日本人が米加いずれかの在住者との結婚によって改姓した場合、あるいは日本語を全く解さないが日本人風の名前をもつ日系人が論文を執筆したという場合もあると考えられるからである。

これに加えて、本文などに執筆者の出身地あるいは学歴を明記している論文は極めて少ない。そのため、姓名をみるだけでは執筆者が日本からの留学生かアメリカ国籍を取得した日本出身者か日系人かを判断することは難しいといえる。

ただし、2000年から2002年の3年間で日本と何らかのかかわりをもつであろう執筆者が学位授与件数の41.9%を占めるという事実は、これらの人々が米加両国における日本研究を支える重要な層を形成していることを示唆しているといえるだろう。

6. おわりに

2000年から2002年にかけてアメリカ合衆国およびカナダ両国で受理された博士論文のうち日本を研究対象とする論文を、法政大学国際日本学研究所デジタルライブラリに収蔵されているUMIのマイクロフィルムデータを用いて分析、検討した。

その結果、3年間の学位授与の総数は463件、授与大学数は142大学であり、主題を部門に分けるとEducationとHistoryが最も多かった。研究の対象となる時代区分としては19世紀以降のいわゆる近代の日本が最も多く、かつて正統的な近代以前の日本文学、芸術の研究が割合を低下させているのが特徴的であった。

各論文の基本的な態度としては、単なる異国趣味あるいはジャポニズム的な観点からの研究は皆無といってよく、専門分野からの分析と検討がほとんどであった。これは、国家に貢献する研究を評価するというアメリカ合衆国の社会的風潮が日本研究にも影響している結果であると考えられる。

各大学の博士号授与件数については、歴史的に日系人の数が多いハワイ州やカリフォルニア州に所在する大学が上位を占めるが、1980年代に日本研究の蔵書の拡充を行ったTHE OHIO STATE UNIVERSITYも名を連ねるなど、研究環境の整備によって研究者数が一定の割合で確保されていることが示唆された。

今回の調査は2000年からの3年間を対象として行われたが、米加両国の日本研究の動向をより正確に知るためには、今後も経時的な調査を継続する必要があるだろう。また、人文科学、社会科学の論文だけでなく自然科学の論文も対象とすることで、より包括的な日本研究の動向が把握されうらうだろう。

また、各執筆者が選んだ主題と所属大学との関係、あるいは指導教員と論文の趣旨の関係なども、今後の調査の継続によって有意義な結果をもたらすことが期待できる。

以上の各点については本論の範疇を越えるため今回の報告では触れなかったが、後日稿を改めて取り組むことができれば、各国における日本研究の動向調査に裨益するのではないかと考える。今後の課題として自らに課す次第である。

注

- 1 国際日本文化研究センター編、「日本研究」第10巻、国際日本文化研究センター、1994年.
- 2 1994年以降の動静を保管する意味も含め、現在同センターでは世界の日本研究機関データベースをインターネット上で公開している（URL：<http://cat4.nichibun.ac.jp:8088/servlet/nichibun.servlet.ShowConnect>）。
- 3 宮城徹、オーストラリアにおける日本関連研究：修士・博士論文トピックの検討、「東京外国語大学留学生日本語教育センター論集」第29号、85-98頁、1998年.
- 4 cf. <http://www.umi.com/ab-about.shtml>
- 5 cf. <http://www.proquestcompany.com/about/history.shtml>
- 6 臼井祥子、米国における日本研究、「日本研究」第10巻、205頁、1994年.
- 7 同上
- 8 同、193頁.

Trends in Japanology in the United States and Canada viewed through doctoral dissertations

SUZUMURA Yūsuke

This is a study based on analysis of microfilm data compiled by University Microfilms International (UMI) concerning doctoral dissertations on Japan-related subjects, accepted by universities in the U.S.A. and Canada between 2000 and 2002.

During this three-year period, a total of 463 doctorates were awarded by 142 universities, with degrees in the fields of education and history most numerous. In terms of historical era, those dealing with Japan of the modern era, nineteenth century and later, were most numerous, while the proportion of those dealing with the literature and arts of earlier periods appears to be declining.

It seems fair to say that research at this level no longer deals with Japan at the level of orientalism or Japonisme; almost all of the dissertations reviewed consist of analysis and study in specialist fields. This may be a reflection in the field of Japanology of the American social trend to evaluate positively research that contributes to the interests of the state.

Universities awarding the largest number of doctorates in Japan-related fields are concentrated in Hawaii and California, states that continue to have comparatively larger Japanese-American populations. A notable increase is also to be seen at Ohio State University, which during the 1980s expanded its collection of Japan-related books and journals. This demonstrates the positive effect that improvements in the research environment can have in terms of attracting researchers.